

自殺未遂者支援と連携のための実践

～ 地域でつながる！子どもから大人まで ～

自殺未遂は、自殺に関する最も重要なリスク因子です。支援者が本人や周囲の人々の状況に速やかに気づき、ニーズに応じた支援をしていくことが重要です。特に、近年の深刻な社会問題である小中高生の自殺については、自殺未遂があった時期が自殺の1年以内である場合が過半数を占めています。

本研修では、子どもから大人までのあらゆる年代の自殺未遂者や、孤独・孤立による精神的な不調を抱える方々の支援に向けて、関係者の連携力と対応力の向上、そして地域での“顔の見える関係づくり”を目指します。今、私たちにできることを一緒に考えてみませんか。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

令和7年 **12月12日** (金) 午後1時30分～5時

会場

独立行政法人国立病院機構 災害医療センター
4階 地域医療研修センター

〒190-0014 東京都立川市緑町3256

対象

自殺対策や若者支援にかかわる
地域関係者

・医療機関、教育機関（中学、高校教員等）、行政機関（市・児童相談所等）、社会福祉協議会、NPO法人等

講義 1 自殺予防の基礎知識

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所 所長

張 賢徳 (ちょう よしのり) 医師

プロフィール

1965年大阪市生まれ。1991年東京大学医学部医学科卒業後、帝京大学医学部精神神経科学教室に入局。1997年英国ケンブリッジ大学精神医学博士号取得。2008年から2021年まで帝京大学医学部教授・附属溝口病院精神科科長。2021年より帝京大学溝口病院精神科客員教授。一般社団法人日本うつ病センター・六番町メンタルクリニック院長、一般社団法人日本うつ病センター副理事長を経て、2024年4月より現職。専門は臨床精神医学と自殺学で社会心理学や宗教学にも関心を寄せている。



講義 2 地域支援と多職種連携の実践

独立行政法人国立病院機構
災害医療センター
救命救急科 医長

臼杵 理人 (うすき まさと) 医師

プロフィール

1976年香川県生まれ。2002年宮崎大学医学部医学科卒業後、九州大学医学部精神病態医学教室に入局。専門はリエゾン・コンサルテーション精神医学。2022年より現職。災害医療センターにおけるリエゾンチーム、緩和ケアチームの立ち上げ、PTSDに関する臨床研究に尽力。厚生労働省精神・障害保健課、立川拘置所医務課長、人事院職場復帰相談医を歴任。一般社団法人日本うつ病センター上席研究員。医学博士。



演習・グループワーク

- ・リスク評価演習
- ・事例を用いたグループワーク

(過量服薬歴のある高校生の事例、複合的な課題を抱える中年男性の事例等)

※本研修会は「このころの連携指導料（Ⅰ）」の算定に必須の要件研修会です。

研修を受講された方（精神科・心療内科を除く保険医療機関での業務に従事する医師）には、修了書を発行いたします。



申込 以下URLまたは二次元コードの申込フォームからお申し込みください。
※お申し込み多数の場合には調整を行うことがあります。あらかじめご了承ください。
<https://logoform.jp/form/tmgform/1234880>

問合せ 東京都多摩立川保健所市町村連携課
辻・齋藤・竹内 電話 042-524-5171 (代)

申込締切
11月17日 (月)

